

私は腹立たしさを覚えました

一時間目の授業巡視が私の日課です。校長がどっかり居座ると授業者が緊張するので、大切なことを見届けたら、次の教室に移ろうと心がけています。

その「大切なこと」とは何か……それは企業秘密としておきましようかね。いつも通りの様子の中に、生徒たちのすばらしい点、まだまだな点を見つけたいと考えていますので、内緒にしておきます。しかし、このことは早急に何とかしたいと思えることがありましたので、今日は特別に書きたいと思います。

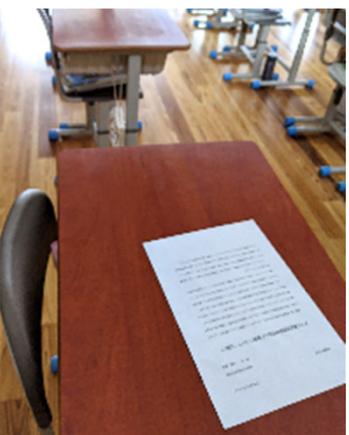
私が各教室に入って確かめるものの一つに、欠席者の机があります。机の何を見ているのか想像してください。そこに仲間や担任の気遣いがあるかどうかを、私は見えています。

具体的に言います。欠席者の机の上に、配付されたプリント類が無造作に置かれたままになっていることが、私には許せません。三十人の学級だとすると、欠席者を除く二十九名の仲間と一人の担任、合わせて三十人もいながら一人も欠席者の机上に気を配れないことに腹立たしさを感じます。冷たさを感じます。

班や近くの席の仲間を問題にしているわけではありません。同じ空間に三十人もいながら、だれ一人として、プリントが風に飛ばされないように何か載せておくとか、引き出しに入れておくとかをしないことがゆゆしき問題だと私は思います。三十人が素通りだということ。

学級目標をどのクラスも決めたことと思います。理想とする学級像をその言葉に込めたことでしょう。しかし、どうすることでその目標を達成するかはっきりさせていなければ、単なる言葉選びに終わってしまうのではないのでしょうか。

大きな行事をやり遂げたり、よい成績を残したりすることだけが、学級目標達成につながるわけではありません。日常の中の片言隻語（へんげんせきご）や配付物一枚に対する心遣い、そういうものが日々積み重なって優しい学級、素敵な学級はできあがるのだと私は思います。



（七月十六日 記）